

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 高等専門学校名 鈴鹿工業高等専門学校
- (2) 所在地 三重県鈴鹿市白子町
- (3) 学科等の構成
- 学 科：機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，生物応用化学科，材料工学科
- 専攻科：電子機械工学専攻，応用物質工学専攻
- (4) 学生数及び教員数（平成24年5月1日現在）
- 学生数：学科 1,084人，専攻科 65人
- 専任教員数：81人

2 特徴

鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」と称す）は、昭和37年4月に我が国の工業発展を支える実践的な技術者の育成を目指し、機械工学科，電気工学科，工業化学科の3学科で発足した。昭和41年度に金属工学科を増設し、昭和61年度に同科を材料工学科に改組した。平成元年には電子情報工学科を増設し、現在の5学科体制を確立した。さらに、平成5年度に2年制の専攻科（電子機械工学専攻，応用物質工学専攻の2専攻）を設置した。その後、平成9年度には工業化学科を生物応用化学科に改組し、平成15年度には電気工学科を電気電子工学科に名称変更した。また、平成15年度には、学科第4学年，第5学年及び専攻科課程で構成される「複合型生産システム工学」教育プログラム（融合複合・新領域分野）が、国際的な同等性を有した工学教育プログラムであるとして日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定を受けている。

本校は、「知徳体三育の全人教育」を範とする建学の精神に則り、創設以来、我が国の工業発展を支える創造的な実践的技術者を育成すること、広く地域と社会に貢献することを使命としてきた。この間、地球環境保全の観点に立った科学技術の高度化や国際化の進展、教育改革の動向等を教育理念、養成すべき人材像、教育方針・目標等に反映させながら、産業界にとどまらず大学・大学院への人材供給も視野に入れた、創造的・実践的技術者を養成するための教養教育及び専門教育を実践している。さらに、地域の小中高生等に対する理科教育・理系進路選択啓蒙活動、企業技術者育成協力事業等の様々な地域・社会貢献活動も推進している。そこで、本校の教育、研究及び社会貢献活動等の方向性を明確にするため、平成23年度に「技術者養成に関する地域の中核的教育機関

として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する」ことを新たな使命として定めた。

学科（準学士課程）及び専攻科（専攻科課程）ごとに、教育理念、養成すべき人材像、教養教育の目標、専門教育の目標などを「学習・教育目標」として統合・周知し、これらに基づく教育を実践するとともに、教育の成果に関する外部評価及び学生自身による達成度評価も実施している。

創造的・実践的技術者を養成するため、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーカー・エコカーレース等の各種大会参加を目指した創造的プロジェクトを推進し、「エキスパートのスキルと感性を導入した創造工学プログラムの構築」、「環境志向・価値創造型エンジニアの育成」等の支援事業を活用した創造教育・環境教育の充実を図っている。また、外国人 TA による少人数英語授業の開講、TOEIC IP 試験の校内実施、海外の高等教育機関との学術交流協定に基づく海外派遣・語学研修事業及び国際的インターンシップ派遣事業等による学生の国際性の涵養に努めている。

クラブ活動等の課外活動も豊かな人間性の涵養のために重視している。近年の体育系・文化系クラブの活動実績・成果は、「秩序の中の自由を尊ぶ」校風と相俟って、全国にその名を馳せる活躍をするなど目覚ましいものがあり、学生の徳・体を育む体制も十分充実している。

地元企業の会社説明会の開催等の充実した就職・進学支援体制により、就職率及び進学率は常に100%を維持している。卒業生・修了生の多くは企業の技術者として活躍するほか、企業経営者、研究者や大学・高専教員など幅広い分野に優秀な人材を輩出している。また、これら卒業生・修了生の活躍・実績、オープンカレッジの開催や模擬授業の開講等の広報活動、女性教員の積極的配置や「女性総合サポート室」の設置等に加え、公開講座、出前授業、「女子中高生の理系進路選択支援事業」等による理科教育・理系進路選択啓蒙活動等の継続的な地域貢献活動を背景に、少子化が進む中にも関わらず、全国有数の志願者数を確保している。

産学官連携活動として、鈴鹿市商工会議所及び市内の高等教育機関と連携するSUZUKA産学官交流会活動、鈴鹿市及び三重県と連携した構造改革特区事業「燃料電池技術を核とした産学官連携ものづくり特区」への参画、「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」、鳥羽商船高専と連携した産学官連携コーディネータの配置及び「高専間及び地域との連携による技術者人材育成組織と方法論の構築」事業等を積極的に実施し、社会貢献活動の実績を積み重ねている。